

令和7年度 第6回 日本診療放射線技師連盟理事会 議事録

日時：令和7年11月10日(月)18:30~19:30

会場：Web 開催

参加者 理事長：木暮陽介

副理事長：江田哲男、角田喜彦、中上康次、丹羽政美

理事：上田克彦、江藤芳浩、江端清和、木口雅夫、小林聖子、
澁谷一敬、園田優、杉澤路子、谷本恵子、富田博信、
中村勝、中村泰彦、西小野昭人、長谷川雅一、山本英雄

監事：田中功、松原馨

陪席者：畦元将吾、加藤京一、各地域連盟支部長

司会進行：中上康次

書記：谷本恵子

(敬称略)

業務報告・周知事項（報告期間：前回理事会～本日）

1. 連名活動報告 木暮理事長

7月23日（水）第5回JFRT理事会開催

8月19日（火）JFRT主催 第17回定例勉強会開催

8月27日（水）第47回 岸田文雄と国政を語る会に出席

9月12日（金）～9月14日（日）

第41回日本診療放射線技師学術大会にて連盟ブース設置

9月30日（火）第19回社会保障勉強会（田村憲久）に出席

9月30日（火）JFRT主催 第18回定例勉強会開催

10月29日（水）JFRT主催 第19回定例勉強会開催

※（公社）東京都診療放射線技師会会誌に日本診療放射線技師連盟ニュース掲載依頼

※ HP 作業：グーグルカレンダー予定追加、連盟ニュース・定例勉強会 アップ

2. 会計報告 木暮理事長

連盟会員数は715名（2025年11月9日時点）

2025年度の年会費納入状況は252件、寄付は21件

2024年度の年会費納入状況は472件、寄付は15件

2023年度の年会費納入状況は169件、寄付は21件

連盟残金：395,299 円（2025 年 11 月 9 日時点）

3. 連盟会員システム報告 角田副理事長

会員システム上の会員数は 715 名、システム利用者 696 名、退会人数 19 名、メール不達 24 名となっている。

寄付は 11 名からいただいている。前回と著変なし。

4. 日本診療放射線技師会報告 上田理事

ケアマネージャーの受験資格について、報道では「臨床検査技師、救命救急士等」と表現されていた。この「等」の中に、我々診療放射線技師も含まれている。これは畦元先生が、以前から懇談会等で要望していた事項であり、労働側、老健局のヒアリングを受けてきた。最終段階では我々が落とされそうになったが、日本診療放射線技師会ならびに日本診療放射線技師連盟それぞれの関係者から多くの資料提供をいただき、結果として同列の扱いとなった。

自民党の予算政策懇談会が開催され、日本診療放射線技師連盟と共同で 6 項目を提出している。そのうち 3 項目は以前に共有した内容である。「がん診療に対する事項」は、畦元先生が議員として活動していた時期に、放射性同位元素を用いた治療・検査の拡大を推進すべきと要望していたものであり、核医学と放射線治療の両分野の発展を求める内容である。また、外部照射についても重要な論点である。現行の放射線治療（IMRT）の施設基準では、放射線科医が 2 名いなければ実施できず、装置があっても実施できない施設が、がん診療連携拠点病院で約 100 施設存在する。この問題に対しては、山梨大学の大西先生（放射線治療医）が中心となり、診療放射線技師も加わる研究班で研修等を進めた結果「1 名＋もう 1 名は非常勤でも可」「遠隔で医師が確認する方法も可」とする方向性が示されている。先週水曜日の中医協議案にも大きな反対なく進んでおり、施設基準は変更される見込みである。

さらに、畦元先生が議員となって以降、厚生労働省・環境省・原子力規制庁に診療放射線技師を職員として配置する流れが強まり、今年 4 月からも少なくとも 3 名が新たに厚生労働省へ配属される予定である。各部署に配置され、法律を作る側に診療放射線技師が関わる体制が整いつつある。

5. その他 中上副理事長

10月12日に、自民党広島県連による「政策要望ヒアリング会」が広島で開催され、連盟として「広島県診療放射線技師会」の肩書きを持って参加した。当日は、自民党所属の国会議員の先生方の前で、約2分間のスピーチの機会が与えられており、毎年1回開催される場であるが、今年も診療放射線技師としての要望を訴えてきた。その後、政策懇話会（自民党広島県連主催）が開催され参加した。会場では、岸田文雄前総理、寺田稔先生、平口洋先生など、畦元先生が広島県連所属であった時期にお世話になった議員の先生方と面会した。

このような会は全国各都道府県単位で開催されている。先日も、自民党本部において上田会長や役員の方々が参加し、さまざまな要望を訴える機会があったと承知している。全国的に展開されている取り組みであるため、今後は支部長の皆様にも積極的に関わっていただきたいというのが本音である。

現在、我々の代表となる国会議員が不在の状況にあるため、診療放射線技師としての存在を積極的にアピールすることが極めて重要である。

6. その他 木暮理事長

2点の報告がある。今週11月12日（水）に開催される自民党の政策懇談会に、上田会長と私が参加する予定である。また、同日に開催される、日本臨床衛生検査技師会および日本臨床検査技師連盟の定例会議にも出席し、最後の懇談会には畦元先生も参加される予定でスケジュールを調整している。

審議事項

1. 役員改選について 木暮理事長

まず、理事長についてである。福井大会の際に各支部長へ相談させていただいた。衆議院、参議院選挙があったが、私自身、参議院選挙で結果が振るわなかったことを受け、理事長としてのけじめをつける必要があると強く感じていた。

理事長を退くにあたり、上田会長とも協議したうえで、畦元先生を新たな理事長として推薦することとした。周知のとおり、畦元先生は国政・官公庁双方に強固なパイプを有している。畦元先生が代議員でなく、また連盟内で役職を持たない状態であれば、せっかくの人脈が十分に活かされなくなる懸念がある。畦元先生が連盟理事長として活動できることは、我々にとって大きなアドバンテージになると考えており、今回、畦元先生を連盟第7代理事長として推薦するものである。

次に、副理事長についてである。これまでは東京都の江田副理事長および市川副理事長が務めていたが、連盟としての結束をより強固にする観点から、これまで理事として活動していた上田会長および江端業務執行理事を、副理事長として任命したいと考えている。江田副理事長および市川副理事長については引き続き理事として参画いただきたい。また、私自身については、これまでの業務や雑務引継ぎもあるため、僭越ながら事務局として残り、新理事長となる畦元先生を支える立場で引き続き関わりたいと考えている。

以上2点につき、審議をお願いしたい。

一賛成多数で承認された。

山本理事

今回の選挙についてであるが、いまだ総括が十分に行われていないように思われる。本来であれば、役員人事に関する議論よりも先に、今回の選挙結果について整理し、振り返りを行うことが必要ではないかと考える。過去の選挙においても、明確な総括がなされないまま次へ進んでいる印象があり、この点が連盟としての弱みになっているのではないかと感じている。選挙活動の中で、どこが良かったのか、どこに課題があったのかを明らかにしなければ、会員や関係者への説明にも支障が生じる。例えば、診療放射線技師の票が2万票にとどまった理由、臨床検査技師はどの程度協力してくれたのか、保育士の状況、運送業界の支援票など、共有すべき点が多くあるように思う。しかし、現状ではそうした情報の共有がなく、周囲に十分な説明ができない状況である。適切な総括を行い、その内容を次期担当者に確実に引き継ぐことが大切であると考えますが、いかがであるか。

木暮理事長

前回の理事会において、各都道府県の投票数と連盟会員数との比例関係についての資料を提示させていただいた。臨床検査技師連盟や福山通運など、他団体からの具体的な票数は不明であるものの、少なくとも各都道府県の連盟会員数と畦元先生への自民党票数は概ね一致していた。しかし、実数として連盟会員数は約700名程度であり、その数がそのまま選挙結果に反映された印象である。全体を合わせても約2万票程度であり、臨床検査技師連盟や福山通運からの組織票はほとんど見られなかったと推測される。一方で、子ども保育領域については、新潟県のみが突出しており、同県支部が積極的に支援に入った結果として票が伸びたと考えられる。全国的な支援体制があったわけではなく、新潟県の支部長が直接動いてくださったことによる成果である。

選挙協力体制全体としては、十分とはいえない状況であった。連盟会員数約 5000 名に向けて、事務局から定例勉強会や各種案内を継続的に発信してきたものの、実際には協力すると言ってくれる方がいても、当日の三連休等の影響もあり、票の広がりにはなかなか繋がらなかった。この点でも、やはり連盟会員であるかどうかが大きく影響したと考えている。年会費 2000 円を負担し入会している方は、1 票にとどまらず、周囲への働きかけにもつながる傾向がある。しかし未入会の場合、協力するという意思表示が点に留まり、線や面として広がりにくいことが今回の反省点である。なお、選挙結果そのものに関する数値の扱いは公職選挙法上の制限もあり、限定的な総括となるが、全体として上記のような実感を持っている。

今週水曜日には臨床検査技師連盟との協議を予定しており、反省点に加え、今後の連携を継続すべきか否かも含め、上田会長および畦元先生のご意向とともに検討を行う予定である。次回理事会においてその内容を報告するが、本日の時点で報告が遅くなっていることについてはお詫び申し上げたい。

今回の選挙活動全体の成果については、個々の取り組みがどう票に結びついたかという検証を十分に行う必要がある。静岡県でも前回より票が大きく減少しており、参加者が多かった Web 勉強会がどれほど効果を持ったのかについても、検証が必要である。実際に定例勉強会には延べ 5000 名が参加しているが、そのうち連盟入会者は数十名にとどまっている。こうした状況を踏まえ、現在はオンデマンド配信の見逃し視聴を会員特典とする施策を進めており、関心の入口づくりとして期待している。最終的には、連盟会員を増やすことが選挙結果にもつながると考えており、その点こそ今回の活動で痛感した最大の課題である。連盟の財政状況についても、他団体の規模と比較すると厳しい状況にある。この予算規模ではアピール活動や十分な支援が難しく、政治活動における連盟の弱さとして強く認識している。こうした背景から、今後の新理事長のもとでも「連盟会員を増やす活動」も強く進めていきたいと切に願う。

山崎支部長

私自身、地方の支部長として活動してきたが、連盟活動が十分に浸透しない場面も多く、理事会としてもどこか技師会に依存しているような状況があったため、具体的な進め方や指導の難しさを感じるがあった。山本理事からもご指摘があったとおり、地方として連盟会員数を増やすための起爆剤となる施策や方策について、地方独自で考えていく必要があると考える。また、全国としてもこれまで様々な取り組みを行ってきたが、それが十分に票へ結びつかなかった点については、地方側の力不足もあったと受け止めている。各支部がより力を発揮できるよう、今後もご指導をいただければ大変ありがたいと考えている。

畦元先生

今回の選挙では全体的に得票が大きく落ち込んでいた。自民党候補への逆風も強く、これまで得票の多かった候補でも得票が半分以上に減っており、悪くないとされていた候補でも3分の1程度まで減票していた状況である。このような情勢下であったことは確かであり、その点については申し訳なく感じている。一方で、選挙ごとに体制を大きく入れ替えてしまうと、これまでの経験や蓄積が途切れてしまうため、急激な入れ替えは望ましくないと考える。私自身、今回の次期体制がどうなるかは未定であるが、もし引き続き関わることができるのであれば、木暮先生と共に、これまで積み上げてきた取り組みを次につなげていきたいという思いである。かつては、選挙活動において過度な手法や費用を伴う意見も出ていた時期があったが、近年はそうした極端な案はなく、活動内容も現実的で、選挙に結びつく意見が増えてきていると感じている。ただし、今回は情勢の影響もあり、我々の働きかけだけでは十分に票に繋がらなかった点は反省すべきところである。また、一部の地域では連盟会員数を大きく超える得票が見られるところもあり、今後、こうした地域の取り組みが連盟活動や会員増加につながる可能性もあると考えている。未知数ではあるが、次に向けた工夫を重ねる余地は十分にある。今回の選挙結果は厳しく、自民党への逆風も重なっていたため、数字だけを見ると私自身も非常に落ち込んだ。しかしながら、全体として得票が下がっていた背景を考えると、まだ可能性は十分にあると感じている。特に、木暮先生の戦略は効果的であったと考えており、もしあの取り組みがなければ、得票数はさらに減っていた可能性がある。良かった点は次に活かしつつ、改善を図っていくことが重要である。最後に、診療放射線技師の中から次の世代の代表が立候補できるよう、今後も基盤づくりを進めていきたいと考えている。

木暮理事長

理事長を退く立場から申し上げるのは恐縮であるが、今回の選挙期間中から終了直後にかけて、いくつかの意見が寄せられていた。その中で特に多かったのは、連盟として“青年部”や“女性局”のような組織を設けてはどうか、というものである。現在、連盟の支部長は技師会からの推薦による場合が多く、若い世代や女性技師からの意見を受け止める場が十分に整っていないのが現状である。これに対し、年代や立場の異なる意見を受け入れ、活動の幅を広げるための箱が必要ではないかという指摘が複数あった。青年部や女性部を本部で設置するのか、あるいは支部単位で立ち上げるのかは今後の検討課題であるが、いずれにしても、若い世代や女性の声をより積極的に反映し、活動の活性化につなげる仕組みづくりが必要であると考えている。今後、新しい理事長のもとで、こうした組織の設置を検討

いただき、より多様な意見を反映しながら連盟が力を発揮できる場を整えていくことを期待している。

2. 新理事長挨拶 畦元新理事長

まず、これまで連盟の発展に尽力された木暮前理事長をはじめ、日頃から活動いただいている理事・副理事の皆様に深く感謝申し上げます。理事長という重責を担うにあたり、身の引き締まる思いである。

私は診療放射線技師として医療現場に従事した後、企業でCT・MRI関連の製品開発に携わり、その後衆議院議員として活動した。厚生労働大臣政務官や党の副幹事長を務めた経験から、現在も国政とのパイプを有しており、この繋がりを診療放射線技師のために最大限活かしていきたいと考えている。現在、認知症関連や診療放射線技師議連にも参加しており、国政における意見の発信・調整の機会を継続的に得ている。今後もこれらの繋がりを絶やすことなく、現場の課題を国に届け、制度整備・環境改善に取り組む所存である。

医療現場ではタスクシフトやチーム医療が進み、診療放射線技師の役割と責任は大きくなっている。診療放射線技師が安心して力を発揮できる環境整備を国に求めていくことが、連盟の重要な使命であると認識している。木暮前理事長をはじめ、理事・副理事の皆様と協力しながら、この使命を果たしていきたい。また、政治に声を届けるためには数の力が不可欠であり、連盟会員の拡大は喫緊の課題である。1人1人が政治に関心を持ち、連盟としてまとまって行動することで、将来的に参議院への候補者擁立も現実味を帯びると考える。会員拡大の具体策については、理事・副理事・上田会長とともに検討を進めていく。併せて、若い世代や女性技師の意見を吸い上げるため、青年局・女性局の設置も必要であると考えている。これらの活動には積極的に関わり、地域との距離も近づけていきたい。私は国政との繋がりを維持しつつ、診療放射線技師会の声を厚生労働省などに届ける役割も果たしていくつもりである。これらの人脈は継続してこそ意味を持つため、関係を絶やすことなく次世代へ繋いでいきたい。私自身の決意を申し上げるとともに、皆様のご支援・ご協力を賜りたく思う。

3. その他

加藤先生

以前は組織の事情により表立った活動が難しかったが、現在は組織を離れ、企業人として新たに活動している。今回の選挙について、畦元先生とも意見交換を行ったが、全体として投票率の低さが問題となっていた。診療放射線技師の立場から考えてみても、現状に大きな不満がないために政治への真剣度が高まりにくい側面があるのではないかと感じている。若い世代がどう動けば良いか、意見を聞く場を広げることも必要である。また、自民党への逆風も極めて強く、時期が異なれば大きく結果が変わった可能性もある。畦元先生はこれからも支えていくべき重要な存在であり、次の候補者もすぐに準備できる状況ではない。今回の結果は厳しいが、現状の情勢を考えればやむを得ない部分もあると受け止めている。診療放射線技師は約5万5000人いる中で、今回の得票が2万票にとどまったことについては、関連団体から協力があつたはずにもかかわらず票が伸びなかった点が課題である。過去と比べても、今回は連盟として最も良い選挙運動ができていたと感じるだけに、開票結果を見て落胆した。しかし、ハラスメントへの懸念など、現場では票を頼むことすら言いにくい状況が広がっていることも実感しており、組織として配慮しながら進める必要がある。俯瞰的に見れば、今回の結果は情勢・社会状況の影響も大きかったと考えられる。そのうえで、こうして皆で議論し、振り返る場が設けられていることは大変有意義である。

私は組織にいた頃から政治に強い関心を持ち、国会議事堂での研修や関係者との交流を通じて多くの経験を積ませていただいた。現在は企業人として活動しているが、診療放射線技師として様々な方と接する機会も増えている。そのネットワークを連盟の活動にも役立てることができるのではないかと考えている。つきましては、もしご承認いただけるのであれば、一企業人として連盟の理事に加わり、正式な立場で活動に参加したいと考えている。皆様のお役に立てる部分があると感じており、本日の議論を伺う中で、その意思をお伝えすべきだと思い発言させていただいた。どうかご検討いただきたい。

中上副理事長

審議事項として取り上げる。

加藤先生に理事として参画していただくことに承認いただけるか。

－賛成多数により承認された。

今後の予定

第7回理事会：12月15日（月）18:30～

以上